

## VII. 「阿蘇草原再生シンポジウム」の開催

### 1. 開催の趣旨と開催概要

阿蘇くじゅう国立公園の最大の魅力の一つである広大な草原。その草原が危機に直面している今、公園指定 70 周年を機に、あらためて阿蘇の草原の価値を見つめ直し、草原再生に取り組むことの意味を阿蘇から全国へ発信するため、シンポジウムを開催した。

阿蘇地域の牧野組合関係者、一般、NGO・NPO、行政関係者など県内外から約 400 名の参加があり、阿蘇の草原への関心の高さがうかがえた。

#### (1) シンポジウムの概要

- 主催：環境省・熊本日日新聞社
- 共催：熊本県
- 後援：農林水産省九州農政局、国土交通省九州地方整備局、阿蘇郡町村会、（財）阿蘇地域振興デザインセンター、（財）阿蘇グリーンストック
- 開催日時：平成 17 年 2 月 12 日（土）13：00～16：30
- 会場：「熊本テルサ」テルサホール

#### (2) プログラム

- 13：00 あいさつ
- 13：10 国立公園 70 周年記念トーク「阿蘇の魅力を写す」長野良市氏 / 写真家
- 13：40 基調講演「自然再生事業と阿蘇草原再生」中村太士氏 / 北海道大学大学院教授
- 14：20 阿蘇からの報告「阿蘇草原再生への取り組み」
- 15：00 パネルディスカッション「草原再生から阿蘇の地域づくりへ」

#### (3) 阿蘇の草原再生に関わる地元活動団体の参加

シンポジウム開催にあたって、紙面上での活動発表という形での参加呼びかけに応募した地元活動団体（10 団体）から、取り組み内容や阿蘇の草原再生に向けた意見などをもらい、プログラムを掲載した当日配布資料の一部として掲載した。また、シンポジウム会場の入り口に、取り組みを紹介するパネルやチラシを展示してもらった。

### 2. 議事要旨

#### 1) 国立公園 70 周年記念トーク「阿蘇の魅力を写す」 - 長野良市氏 / 写真家

南阿蘇村の写真家、長野良市さんが「阿蘇の魅力を写す」と題して、71 枚の写真を映写しながら講演。写真を撮る上でのひとつのテーマは「峠から見た阿蘇」。峠越えで阿蘇を見たとき、素晴らしいところに自分達は生活しているということを確認する

ことができる、飛行機の窓から見下ろしそこに広がる穏やかな空間を見ると「幸せだなあ」と感じる、など阿蘇の草原が生み出す独特な景観の素晴らしさが語られた。

## 2) 基調講演「自然再生事業と阿蘇草原再生」 - 中村太士氏 / 北海道大学大学院教授

釧路などで始まっている自然再生事業や海外の事例と対比させながら、「阿蘇の自然再生のシンボルは草原の広がる景観で、それを共通認識とすべき」、「阿蘇は人により維持されてきた自然であり、能動的（アクティブ）に人間が関わりあうことによる自然再生が阿蘇ならではの再生だと思う」、「自然再生は、生態系の健全性だけでなく、社会の健全性、経済の健全性をセットで実現することこそが目的とならねばならないが、阿蘇ではまさにそのバランスをどう求めていくかが問われる」など、阿蘇での草原再生の考え方などについて専門家の立場から講演した。

## 3) 阿蘇からの報告 - 環境省自然環境局九州地区自然保護事務所

阿蘇の草原の価値、阿蘇の草原の危機、阿蘇の草原環境保全・再生に向けた環境省の取り組みについて紹介したあと、地元の畜産業の取り組み、野焼き・輪地切り支援ボランティアの活動、都市・農村交流を進める地元牧野組合の取り組みについて、牧野組合関係者や参加者の方々との対話形式で報告が行われた。

阿蘇の畜産を担う母娘から、「草原再生の話を聞いて、この草原は自分たちで守っていかなければと感じた」、阿蘇グリーンストックの野焼き支援ボランティアリーダーから、「すばらしい阿蘇の草原を孫やひ孫に残したいという思いで参加した」などの発言があった。

## 4) パネルディスカッション - 「草原再生から阿蘇の地域づくりへ」

記念トーク、基調講演の講師に加え、草地畜産や地域づくりの専門家、畜産農家、関係行政機関が参加して会場からの意見も交えながら、「草原の再生」をキーワードにした阿蘇の地域づくりに向けての議論が行われた。パネリストからは、「入場料を徴収し、保全活動資金に」、「野草の循環利用の推進を」、「都市の人の協力により、地域の農業が元気になれば草原も再生される」、「草原が持つ多様な価値を守るためにも国民的な支援が必要」、「野草を使った野菜をアピール」、「自分たちの地域をどうしていくかというビジョンが必要」などの提案や意見が出された。